

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	総合政策研究科
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 英語による授業のみで修士課程を修了できる国際開発戦略コースを充実する	→英語で開講される講義で修了する国際開発戦略コースの学生数、同コースについてのホームページなどによる情報発信の有無	B
2. 国連や関係する諸機関との教員レベルの交流と連携を強化する	→特別客員教員数と開講講義数	B
3. 外国人教員の比率（現在約20%）を維持する	→外国人教員比率	A
4. 国際公務員を志望する学生に向けた教育プログラムを設置する	→国連ボランティア、国際公務員育成を目的とする教育プログラムの有無	D
5. 外国人留学生を積極的に受け入れる	→外国人留学生数	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目 7.0.1	(現状説明) 国際交流の方針については必ずしも明示していない。
☆ 小項目 7.0.2	(現状説明) 特別客員教員や客員教員を招聘し、これらの教員が担当する授業科目を開講するなど、適切に実行している。また、国連ボランティアや国際公務員育成を目的とする教育プログラムについて、2013年度の実施に向けて検討している。
☆ その他	

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

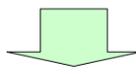
【総合政策研究科】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	10	11	9	5	8	
			交換	人	0	0	0	0	0	
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	12.2	15.9	16.4	12.2	21.6	外国人留学生(正規)÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	外国人留学生(非正規)÷在籍学生数
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—				
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	—	—	—	—	—		
		人 数	長期	人	0	1	0	0	0	
			短期	人	0	0	0	0	0	
		在籍学生比率	長期	%	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	0	0	0	0	0		
		短期	人	0	0	0	0	0		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	0	0	0	0	0		
		短期	人	0	0	0	0	0		
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	—	—		

注) 正規、交換について  
 正規とは学位取得目的(大学院生は特別学生を含む)。交換とは正規以外で大学院短期留学を含む  
 注) 長期、短期について  
 指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。  
 指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	



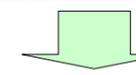
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目 7.0.1	
☆ 小項目 7.0.2	
その他	

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

★ その他  
(自由記述)

## Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

## 【学外委員】

○現状説明が抽象的です。もう少し具体的な説明を加えた方が分かりやすいと思われます。検討が望まれます。

## 【学内委員】

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、小項目7.0.2についてももう少し詳しく現状説明されることを希望します。

○2009年度に設定された目標のうち、外国人留学生の受け入れの増加については成果が上がっています。また、国連や関係する諸機関との教員レベルの交流も促進されているようです。しかし、人的国際学術研究交流については実績がないので、この点改善すべき課題があります。

○目標の達成が期待されます。方針を示し、独自性を明確にされることが望まれます。

○目標の進捗評価が「A」であるものは、効果が上がっている事項と考えます。記述が望まれます。また、「D」のものは改善すべき事項にはあたりませんか。

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

(小項目7.0.1)

★ (方針) 身近な問題の多くが地球規模の問題と密接につながっており、それらの解決策を探っていくことこそ、よりよい地球社会を築くことを可能にすると考え、「関学総政宣言」として「Think Globally. Act Locally. ー今、身近な問題から世界の扉を開くー」を表明している。

(現状説明) 上記の宣言を学部パンフレットやホームページに明示している。

## Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数

<個別的な指標>
